



青島の風

青島日本人学校だより
平成 30 年 3 月 10 日
校 長 金森 孝子

旅立ちのとき



本日、平成29年度の最後の日となりました。今日、子どもたちは、改めてこの1年を振り返り、仲間との思い出や行事、頑張ったことなどから、自分の大きな成長に気付いていくことでしょう。

3月3日(土)は、青島には珍しい小雨の中の卒業式となりました。卒業生 小学部9名、中学部4名が、それぞれの道に向かって、旅立ちのときを迎え、終始すがすがしく立派な姿を見せていました。中学部「送辞」「答辞」小学部「門出の言葉」在校生64名で歌った「つばさをだいて」(作詞：橋本祥路 作曲：海野洋司)、卒業生13名で歌った「旅立ちの日に」(作詞：小嶋登 作曲：坂本浩美)、すべて、胸に迫るものがありました。♪ ～勇気を翼に込めて 希望の風のにり この広い大空に夢を託して ♪ 小学部中学部全員が参加。厳粛な中で、一人一人が全力で自分の役目を果たし、卒業生と在校生がお互いの気持ちを伝え合う、かけがえのない素晴らしい式となりました。「『見えないもの思いやりや気持ち』を見えるようにしていきましょう」と、子どもたちに伝えてきたことが、まさに形になった集大成の卒業式でした。

この一年間、大きな事件、事故がなく、教育活動を充実していくことができたのは、学校運営理事会の皆様、PTA 役員の皆様、日本人会の皆様、そして、毎日子どもたちを元気に明るく送り出してくださった保護者の皆様のご理解、ご支援、ご協力があったからこそと、深く、感謝申し上げます。青島の地から離れる人も、青島日本人学校で来年度も学ぶ人も、この学年での学びを生かし、さらに「知恵」「感動・感性」「たくましさ」「思いやり」ちんたおの力を伸ばしていけるよう祈念しています。

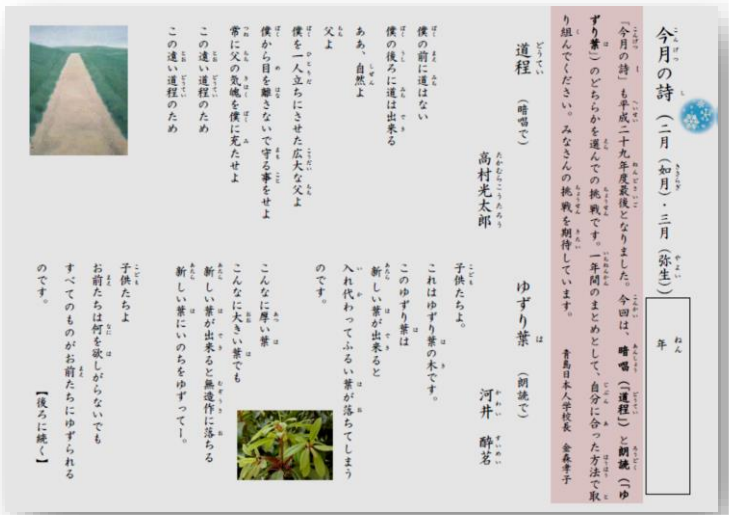


日本人会の皆様、ご支援をいただき、ありがとうございました

平成29年度、春、中学部が青島シャングリラホテル楠様に「キャリア講演会」をお願いしたことを皮切りに、多くの日本人会の方々に、ご支援を賜りました。小学部では、青島イオン東部店様、禾科技様、青島月星鞋業様、新日清制粉食品様、朝日緑源様、住商肥料様、大多福食品様、味堪様、青島新楽迪食品様、青島愛達高服装様、中学部では、ANA 青島支店様、JETRO 様、在青島日本国総領事館様、青島嘉都麗時装様、美容室 J-Flying 様、カケン様、青島イオン合肥路店様、風林火山 ラ・ルーナロシア様、また、そのほかに 青島藤華紡織様には職員研修でもお世話になりました。今後も、子どもたちのために、ご指導、ご支援をよろしく願いいたします。

今月の詩～がんばりましたね～

5月「早口言葉」「数え歌」「手鞠唄」から、2・3月「現代詩」まで、10回にわたり、「今月の詩」の課題に子どもたちは取り組みました。友達と競いながらトライする子、自分のペースでじっくりトライする子、担任の先生に励まされながら頑張る子、多くの子どもたちがチャレンジしました。



今月の詩 (二月 (お月) 三月 (お生))
 今年 (ことし) は、平成二十九年度最後となりました。今回は、晴雪 (晴雪) と朗読 (朗読) とゆずり葉 (ゆずり葉) のどちらかを運ぶための挑戦です。一年間のまとめとして、自分な合った方法で取り組んでください。みなさんの挑戦を期待しています。 青島日本人学校長 金井孝子

道程 (晴雪で)
 高村光太郎
 僕の前には道はない
 僕の後ろには道は出来る
 ああ、自然よ
 父よ
 僕を一人立ちにさせた広大な父よ
 僕が目を離さないで守る事をせよ
 常に父の気概を僕に充たせよ
 この遠い道程のため
 この遠い道程のため

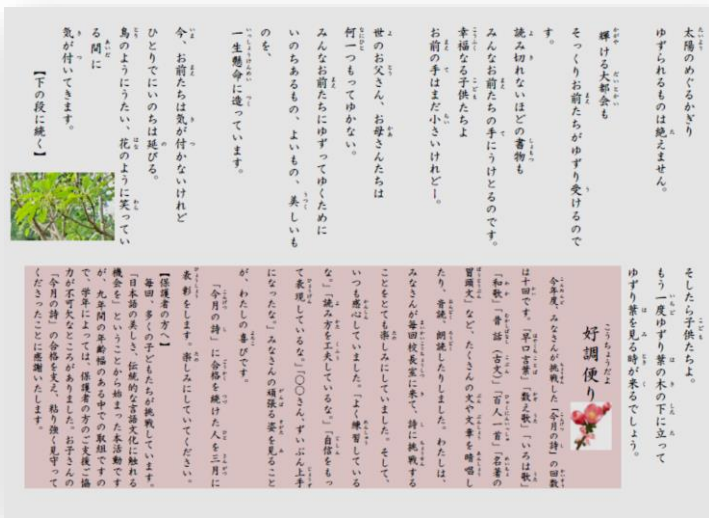
ゆずり葉 (朗読で)
 河井 酔茗
 子供たちよ
 これはゆずり葉の水です。
 このゆずり葉は
 新しい葉が出来るよ
 入れ代わってふるい葉が落ちてしま
 のです。

こんなには厚い葉
 こんなに大きい葉でも
 新しい葉が出来るよ無造作に落ちる
 新しい葉にいのちをゆずって！

子供たちよ
 お前たちは何を歌がらないでも
 すべてのものがお前たちにゆずられる
 のです。 【後ろに続く】

2・3月の詩は、「卒業」「進級」に相応しい詩を選びました。練習しているうちに、その詩のメッセージを感じ取ってほしい、詩を好きになってほしい、という願いからでした。

1年間を通して、直接子どもと触れ合うことができるこの取組は、私にとって、素晴らしい時間をもたらせてくれました。

好調便り
 太陽のめぐるかぎり
 ゆずられるものは絶えません。
 輝ける大輪花も
 そっくりお前たちがゆずり受けるので
 す。
 読み切れないほどの書物も
 みんなお前たちの手にうけとるのです。
 幸福なる子供たちよ
 お前たちはまだ小さいけれど、
 世のお父さん、お母さんたちは
 何一つもつてゆかない
 みんなお前たちにゆずってゆくために
 いのちあるもの、よいもの、美しいも
 のを、
 一生懸命に送っています。
 今、お前たちは気が付かないけれど
 ひとりでのいのちは延びる。
 鳥のようにうたい、花のように笑って
 鳥のうたい、花のうたい、
 気が付いてきます。
 【下の段に続く】

そしたら子供たちよ。
 もう一度ゆずり葉の木のうしろに立って
 ゆずり葉を見る時が来るでしょう。
 今年度、みなさんが挑戦した「今月の詩」の回数
 はずばずです。早口言葉「数え歌」「いろは歌」
 「手鞠唄」「音読」「百人一首」「音読」の
 冒険など、たくさんの方々と支えあひ、
 たり、音読、朗読たりしました。わたしは
 みなさんが毎日授業室に来る、詩に挑戦する
 ことをとても楽しみにしていました。そして、
 いつも感謝していました。よ、練習している
 な「読み方を工夫しているな」「自信をもって
 表現しているな」「○○さん、ずいぶん上手
 になったな」。みなさんの頑張る姿を見ること
 が、わたしの喜びです。
 「今月の詩」に命脈を続けたい人を三月に
 発表をします。赤しにしてください。
 「保護者の方へ」
 毎週、多くの子どもたちが挑戦して、います。
 「日本語の美しさ、伝統的な文化に触れる
 機会」ということから始まった活動ですが
 が、九年間の年齢のある中での取組です
 が、学年によっては「保護者の方へ」ご支援一協
 力が不可欠なところがあります。お子さんの
 「今月の詩」の命脈を支え、結び、見守って
 くださることに感謝いたします。

子どもの振り返りから (「トライカード」から)

- この一年間で詩や俳句を覚えて、いろいろ想像できるようになりました。詩や俳句を読みながら、昔の人はどんなことを考えて作ったのだろうと想像するのが楽しくなってきました。
- 詩を読むのは楽しかった。全部いい詩でした。
- 今月の詩に親しんできて、とても感動しました。
- 覚えたのは、いつも口に出していると、リズムがとてもよくて、今月の詩が大好きになった。



「私たちの青島」～青島日本人学校 副読本～が完成しました

子どもたちの青島での学びをさらに充実させていきたいという考えから、副読本の作成は、長年の教職員の願いでした。昨年度の段階で、平成30年創立15周年の機に乗じて、記念事業として「創立15周年記念資料集」を作成することを決定し、今年度、教職員で夏休み前から編集作業を進めました。教育活動に関わってくださった日本人会の方々のご協力を得たり、「青島資料室」の様々な資料を活用したりしたことで、内容を充実させることができました。2月に完成したことから、卒業した児童生徒にも授業に活用した上で、渡すことができました。

副読本の作成にあたっては、海外子女教育振興財団の資金援助を受けました。財団のHPにおいて、近々紹介される予定です。